

# ピアニスト大井駿さんに 作品の聴きどころを聞きました。

——鳥取市で幼少期を過ごされたそうですね。当時の思い出は?

駅前の土曜夜市にはよく連れて行つてもらいました。また、市内に住む祖父がいつも音楽を聴いており、物心がついてから初めて音楽に感動し興味を持ち始めました。その曲は紛れもなく「皇帝」でした。それ以来、どうも私の中で「皇帝」と鳥取が紐づけられて記憶の中に佇んでいます……。

——「皇帝」は名曲として知りますが、どのような曲として捉えていますか?

最もベートーヴェンのこだわりが溢れる作品の一つと思います。「皇帝」は、大砲の音が鳴り響く戦時中のウイーンで書かれましたが、どの劇場も閉鎖されていてベートーヴェンは演奏活動が行えず、作品をとことんこだわって書く時間に充てていました。位の高い友人はみな戦火を逃れて疎開していましたが、この曲は特に仲が良く作曲を教えていた唯一の生徒を想つて書かれました。

その結果、「皇帝」は音楽史上、革新的な作品であるとともに、どんな人にも分かりやすく印象に残る作品になりました。特に、ため息が出てしまうほど美しい第2楽章から、生き生きとした舞踏的な第3楽章への移り変わりは、

最もベートーヴェンのこだわりが溢れる作品の一つだと思います。「皇帝」は、大砲の音が鳴り響く戦時中のウイーンで書かれましたが、どの劇場も閉鎖されていてベートーヴェンは演奏活動が行えず、作品をとことんこだわって書く時間に充てていました。位の高い友人はみな戦火を逃れて疎開していましたが、この曲は特に仲が良く作曲を教えていた唯一の生徒を想つて書かれました。

——指揮活動もされておられますね。

はい。指揮にはもちろん特殊なテクニックや考えは必要ですが、私にとってはアウトプットの方法が違うというだけで、ピアノであつても指揮であつても音楽をしているということには変わりありません。特にモーツアルトやベートーヴェンの時代は、楽器を弾きながら指揮をしていましたので、むしろ自然なことであると考えています。

——鳥取のファンにメッセージをお願

1993年、東京都出身。幼少期を鳥取市で過ごす。高校卒業後に渡欧し、フランス・パリ市立音楽院ピアノ科、ドイツ・ミュンヘン国立音楽演劇大学古楽科、オーストリア・ザルツブルク＝モーツアルテウム大学ピアノ科、同大学指揮科に加え、ヤマハ音楽奨学制度創設以来初となる指揮専攻奨学生として、モーツアルテウム大学指揮科修士課程を修了。2019年より、ユング・ドイチ・フィルハーモニー管弦楽団鍵盤楽器奏者。指揮をブルーノ・ヴァイル、イオン・マリン、ピアノを迫昭嘉、ジャック・ルヴィエ、アンドレアス・グロートホイゼン、古楽をラインハルト・ゲーベル、クリスティーネ・ショルンスハイムの各氏に師事。ならびにペーター・ギュルケ、メナヘム・プレスラー、アンドレアス・シュタイナー、フェレンツ・ラドシュ、クライヴ・ブラウンからも教えを受ける。指揮者・ソリストとして、読売日本交響楽団、パリ警視庁吹奏楽団、モーツアルテウム管弦楽団、バード・ライヒエンハル管弦楽団、マイニンゲン宮廷楽団、ニュルンベルク州立歌劇場等のオーケストラと共に演奏を重ねている。さらに2020年には、迎賓館にて宮内庁所有の1906年製エラールを使ったリサイタルもおこなっている。多岐にわたる演奏活動にとどまらず、豊富な知識を基に音楽之友社にて連載や文筆活動もおこなっており、さまざまな分野を横断する稀有な若手音楽家として注目されている。



ピアノ  
**大井 駿**

わたる演奏活動にとどまらず、豊富な知識を基に音楽之友社にて連載や文筆活動もおこなっており、さまざまな分野を横断する稀有な若手音楽家として注目されている。



指揮  
**米津俊広**

1972年愛知県生まれ。東京音楽大学にて指揮を広上淳一、紙谷一衛各氏に師事。東京音楽大学在学中より指揮活動を開始。日本各地のオーケストラ、オペラ等の客演を重ね。2006年、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会「モーツアルトプログラム」を指揮してデビュー。2007年には、故ミラン・ホルヴァート氏の急病により代役として急遽抜擢され定期演奏会に登場した。またこれまでにリエカ・フィルハーモニー管弦楽団(クロアチア)、リュブリャーナ音楽アカデミー管弦楽団(スロヴェニア)、サラエボ・フィルハーモニー管弦楽団、スロヴェニア国立放送交響楽団、マケドニア・フィルハーモニー管弦楽団などに客演している。2008年、第28回マスター・ブレイヤーズ国際音楽コンクール(ヴェネツィア)の指揮部門にて、最高位並びにブルーノ・ワルター賞(Best Conductor & Bruno Walter Prize)を受賞。2009年にはイタリア、トリエステで行われた、「第1回ヴィクトル・デ・サバタ国際指揮者コンクール」にてファイナリスト3名に選ばれた。現在東京音楽大学講師。平成19年度、文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。



演奏 **鳥取市交響楽団**

鳥取県東部で活動するアマチュアオーケストラ。1976年に発足。年1回の定期演奏会のほか、「県民による第九公演」のオーケストラ演奏も担う。地域のオーケストラとして、鳥取在住のソリスト・音楽家との共演や、地域の音楽イベントへの出演等にも積極的に取り組んでいる。



巨匠ブレンデルと大井駿さん

最もベートーヴェンのこだわりが溢れる作品の一つだと思います。「皇帝」は、大砲の音が鳴り響く戦時中のウイーンで書かれましたが、どの劇場も閉鎖されていてベートーヴェンは演奏活動が行えず、作品をとことんこだわって書く時間に充てていました。位の高い友人はみな戦火を逃れて疎開していましたが、この曲は特に仲が良く作曲を教えていた唯一の生徒を想つて書かれました。

——鳥取のファンにメッセージをお願

## ブラームス／悲劇的序曲

明るく陽気な「大学祝典序曲」と対をなす作品。暗い情熱、胸いっぱいに広がる歌、淡々とした孤独な歩みなどブラームスの特徴が随所にちりばめられ、交響曲の一つの楽章のように充実している。

\*

## ベートーヴェン／ ピアノ協奏曲第5番「皇帝」

ベートーヴェン最後のピアノ協奏曲で、「皇帝」の呼び名のとおり、威厳、品格、華麗さを兼ね備えた堂々たる作品。ピアノ部分も印象的で凄い音楽だが、それを受けるオーケストラ部分も壮大かつ重厚で、まさしく「皇帝」の雰囲気がある。また、第2楽章はベートーヴェンの書いた最も美しい音楽のひとつであり、第3楽章の飛び跳ねるようなリズムと華麗でスリリングな展開は聴く者の心をつかんで離さない。

\*

## ベートーヴェン／ 交響曲第5番「運命」

ロマン・ロランのいう「傑作の森」を形づくる諸傑作の中でも頂点となるこの名曲は、古今の交響曲の中で最も有名であるだけでなく、作曲技法からみても最も完璧な作品であり、人類が創造した芸術の中で最高の傑作とも言われている。ベートーヴェンが弟子に「運命はこのように戸を叩く」と語ったといわれる第1楽章冒頭の4つの音符が全曲にわたり何度も現れ、圧倒的な緊張感と全曲の統一が図られている。

「苦悩から歓喜へ」という構成をとり、激しい葛藤を描いた第1楽章、瞑想的で穏やかな第2楽章、「運命」も実に素敵で、かつ面白い作品です。眉間に皺を寄せず、どうか肩の力を抜いて最後までお楽しみいただければと思います。